

# 全国発芽マップ 2001

中山 迅(宮崎大学教育文化学部)  
中西 英(宮崎大学教育文化学部附属小学校)  
井上英幸((株)宮崎県ソフトウェアセンター)

## 1. はじめに

1995年度に「全国発芽マップ」の企画が提案されて以来、参加校を結ぶ公式の仕組みは、教師用のメーリングリストだけであった。各参加校は、自らの学校のWebサイトを用いて、それぞれの方法で自分たちの活動を伝えるのが、全国発芽マップの文化のひとつであった。

しかし、今年度は新たに以下のようなことに取り組んだ。

- (1) Web上に植物の成長記録システムを設置
- (2) Web上に専用の電子掲示板を設置 (アクセス制限機能付き)
- (3) 中心植物の栽培に加えてスモールプロジェクトを開始

今回は、これらのスモールプロジェクトを中心とした活動を中心に、全国発芽マップ2001の成果と今度の課題について検討したい。

## 2. 今年度の活動の特徴

全国発芽マップの昨年度までの課題として「児童・生徒の直接対話を通した協働学習」「全国190校を超える参加校の増加による活動の沈滞化」「共通して栽培する植物の多様な希望」が挙げられる。そこで、これらの課題を解決するために、全国発芽マップ2001の始動にあたって、メーリングリスト(以下ML)を通して次のようなスモールプロジェクトに関する方針を伝えた。

- (1) 参加校の中からスモールプロジェクトを提案することができる。
- (2) 参加校は、中心植物の栽培の他に別のスモールプロジェクトに参加することができる。
- (3) スモールプロジェクトでは、中心植物以外の植物についての取り組みをおこなうこともできるし、それ以外の企画を立てることもできる。
- (4) スモールプロジェクトの提案者はそれぞれの幹事となり、会議室システムを使って協働学習を進める。

つまり、参加者が自由に提案し、それに賛同する参加者が自由に参加し、学習や活動をつくっていくというこれまでの全国発芽マップの考え方を踏まえた方向性を示した。すると参加校から「ケナフクラフトバザール」(ケナフを用いた工作等)、「ケナフ料理・お菓子づくりマッププロジェクト」(ケナフを用いた料理やお菓子作り)、「落花生プロジェクト」(落花生の栽培や観察や料理)、「BK(ブルーケナフ)情報部」(ブルーケナフの栽培)、「全国紙創り21」(様々な植物からの紙作り)、「綿マッププロジェクト」(綿の栽培や観察等)、「ケナフから広がる夢～ぼくのたね、わたしの夢～」(ケナフ栽培に関する情報交換)などの様々なスモールプロジェクトの提案がなされた。

次に、それらのスモールプロジェクトに運動する形で、児童・生徒が直接やりとりできるWeb掲示板も運用を開始した。このWeb掲示板に関しては2001年5月の運用から2002年1月までの総書き込み数は2000件を超えている。また、中心植物に関しては、Web上で植物の成長を記録できるシステムの運用も始めた。

全国発芽マップ2001の大きな特徴としては、スモールプロジェクトをもとにしたWeb掲示板による協働学習の推進といえることができる。

## 3. 全国発芽マップの集い2001

ネットワーク上の活動とface to faceの活動をつなぐことによって、ネットワーク上の活動をいっそう深化・拡大することを目的として、2001年12月8日(土)に「全国発芽マップの集い2001」を宮崎市で開催した。これは、全国発芽マップの代表的な参加校が一堂に会して交流・協議を行う昨年度に続いての試みであった。

集いの参加者は約100名にのぼり、スモールプロジェクトの取り組みやWeb掲示板による協働学習についての成果や課題も数多く報告され、協議がなされた。また、地球クラブの井柳代表によるアメリカのケナフ学会での発表の様子もパネルを通して紹介された。



#### 4．システムの役割

今年度は、昨年度開発した成長記録システムおよび電子掲示板を用い、児童が直接参加できる交流の場を提供した。昨年度、メーリングリスト上で教員間だけで行われた発言数の約3倍、児童・生徒の書き込みも数多く見られた。また、ある参加校の関係する、海外の学校からの参加、海外の学校からの英語の書き込みを、ボランティアで翻訳してくれたある参加校のPTAの参加等、予想してなかった交流が生まれ、更なる拡がりを呈してきた。



システムの日常的な運用は、そのほとんどを幹事校で行えること、掲示板や成長記録の管理は、更に、参加校それぞれの教員で管理が可能なこと、サーバの管理等は、コンソーシアムメンバーの民間企業が行う、という形で管理を分散させたことで、運用をスムーズに行えた。また、そうした仕掛けに加え、幹事校を含む、中心的な学校の先生たちが、非常に熱心にシステム上で行われるコミュニケーションを盛り上げて下さったことが、大きな活力としてプロジェクト運営サイドまでも動かしたと感じている。

#### 5．おわりに

2001年度の全国発芽マップでは、参加者が複数のスモールプロジェクトにかかわりながら活動を盛り上げていく姿が見られた。児童・生徒の書き込みも多いとは言えないが、着実に増えてきており、当初の目的を果たすことができた。

しかし、画像付き電子掲示板システムでの活動は、熱心な学校の活動をいっそう盛んにした一方で、静かな参加校との差をいっそう際立たせるという結果も生んだ。今後は、さまざまなニーズを持つ参加校にどう応えていく仕組みを作るかが課題になりそうである。